

発行にあたって

菊池武夫の關係史料については、一昨年三月に書簡編（資料集第四集）を刊行し、昨年三月に日記編一（資料集第六集）を翻刻いたしました。本集では、關係史料の第三分冊として日記編二を収録いたしました。

本集に掲載した史料は、明治十三（一八八〇）年から同三〇年にいたる日記帳二冊で、両冊とも日記本文とそれに対応する金銭出納帳が合冊されています。この時期は、米國留学から帰國した菊池が司法省に奉職し、少書記官・大臣秘書官・民法草案編集委員等を経た後、明治二十四（一八九一）年以降は貴族院議員・法典調査会主査委員等を歴任する時期であり、日記からは司法官僚としての活動の一端がうかがわれます。また、菊池は明治二十四年に東京法学院院長に就任していますが、日記には各地の院友と菊池との交流の様子をあらわす記述も多く見られ、これらの交流を前提として明治三〇年代における院友会の組織化が進められたことがわかります。

金銭出納帳には、菊池家の家計が実に詳細に記録されています。地主経営の実態や旅行費用・冠婚葬祭の費用等々生活の全般にわたる記録は、日記本文と併読することによって多くの事実を明らかにしてくれそうです。

なお、日記中に登場する家族や知人たちについては、すでに書簡編（資料集第四集）の解題で一部とりあげていますので、ご参照下さい。

菊池武夫關係史料の翻刻をご快諾下さった菊池英子氏、菊池武範氏、蘆野みち氏、友田靖子氏に末筆ながら感謝いたします。

一九九一年三月

専門委員会主査

服部 昌太郎